

社會主義の進化

次目

- (一) 空想的社會主義より科學的社會主義へ
- (二) 共産主義の敗退
- (三) 改
- (四) 權力争奪の道
- (五) 世界大戰の教訓
- (六) 蘇俄革命
- (七) 無産階級のアイクテ
- (八) 革命と反動革命
- (九) アモクラーシー、労働階級のアイクテ
- (十) ソヴェエツト
- (十一) 萬國労働者必勝の政治形式

「一」 空想的社會主義より科學的社會主義へ

「共産主義とは何か」。フリードリッヒ・エンゲルスは、一八四七年に書いた共産黨宣言の草案の中に、此間に對してかう答へた。「共産主義は労働階級が勝利を得るに必要なる條件に關する教義である」。科學的社會主義の全精神は此一言で盡きてゐる。そしてマルクスとエンゲルスとの生涯の事業は、此定義の通り、資本主義的社會の發達の中に、結局労働階級が資本家階級に取って代らねばならぬ條件の發生するこゝを明かにし、その點を共産主義的活動の中心としよつとしたことに、終始してゐるのである。

マルクス以前の空想的社會主義者は、ブルジョア社會の性質を説明した點では大功がある。フリーリエーでもサン・シモンでもオーウェンでも、皆な科學的社會主義といふ大きな建物を造る材料を集めた人達である。彼等が出なかつたらマルクスも出ずに終つたらう。けれども彼等は資本主義の社會を解剖し批判する點に於ては飽まで深刻に、徹底して居つたに拘らず、この資本主義の社會そのもの、中に、どうしてその社會を破壊するような民衆の勢力が出来るかといふ點を理解することが出来なかつた。つまり彼等は人類救済の立派な計畫を立てるには立てたが、さてその計畫